

高坂町活性化計画

平成26(2014)年3月

高坂町内会
(高坂町地域計画策定委員会)

目 次

序章	計画策定にあたって	1
1章	町の概要	2
1	位置	2
2	人口・世帯数	2
3	道路・交通	4
4	主要公共公益施設	4
2章	町の活性化計画づくりのためのアンケート調査結果の概要	6
1	町内住民（16歳以上）	6
2	小学生（4～6年生）・中学生	14
3章	町の魅力・資源と問題点・課題	16
1	町の魅力・資源	16
2	町の問題点・課題	18
4章	町の活性化計画	19
1	町の将来像	19
2	町づくりの基本方針	21
3	町づくりの基本計画	22
4	計画の推進体制	28
資料	計画策定の取り組み	29

序章 計画策定にあたって

1 計画策定の目的

高坂町（以下「町」といいます。）には、佛通寺や高坂自然休養村があり、中山間地域の中では観光・交流資源に恵まれた地区となっていますが、スポット的な利用で来訪客の多くは町内を通過しています。また、過疎化・高齢化が進行するとともに、商業サービス施設が減少してきています。さらに、高坂小学校が平成25(2013)年3月で閉校となりました。

こうした状況を打開するには、現状に危機感を持ち、自分たちの地区のことは自分たち自らで考え、一人ひとりがそれぞれの立場で協力して地区の活性化に取り組むことが一段と重要になっています。

このため、高坂町内会では平成24(2012)年度に高坂小学校閉校後の跡地利用を検討しました。また、三原市中山間地域活性化事業を活用し、高坂小学校の跡地利用、佛通寺、高坂自然休養村の活用を含む町の総合計画「高坂町活性化計画」の策定に取り組みました。

2 計画の役割

「高坂町活性化計画」は、高坂町内会が中心になって取り組むことを総合的に示したもので、住民、関係団体などで町づくりの方向性を共有するとともに、共通の指針とするものです。

また、計画内容を広く発信して、町出身者、都市住民など、多様な方の幅広い応援を働きかけるために活用します。

3 計画策定への取り組み

高坂町内会では、各種団体の代表者などとともに「高坂町地域計画策定委員会」を設置し、「高坂町活性化計画」の策定に取り組みました。

また、計画策定にあたっては、住民の皆さんの幅広い意見を聞くために、町内住民（16歳以上）、小学生（4～6年生）・中学生へのアンケート調査の実施、町内全住民を対象としたワークショップ（意見交換会）を行いました。

4 計画の期間

計画の期間は、平成26(2014)～30(2018)年度までの5年間とします。

1章 町の概要

1 位置

本町は、三原市のほぼ中央に位置し、三原地域中心部から約30分、本郷地域中心部から約15分の所要時間であり、比較的利便性に恵まれています。

2 人口・世帯数

(1) 人口の動向

本町の総人口を国勢調査で見ると、平成22(2010)年で737人になっており、過去5年間で約9%減少しています。

年齢3区分別人口をみると、平成22(2010)年で0～14歳66人、15～64歳412人、65歳以上259人になっており、高齢化率は約35%で、三原市中山間地域の37%よりやや低くなっています。

過去5年間で、0～14歳及び15～64歳人口は減少、65歳以上人口は増加しています。

表1 人口の推移 (単位：人，%)

区 分		平成17 (2005)年	平成22 (2010)年	増減	
				実数	割合
実 数	合 計	812	737	△75	△ 9.2
	0～14歳	80	66	△14	△17.5
	15～64歳	496	412	△84	△16.9
	65歳以上	236	259	23	9.7
割 合	0～14歳	9.9	9.0		
	15～64歳	61.0	55.9		
	65歳以上	29.1	35.1		

注：資料は、国勢調査。

(2) 世帯数の動向

本町の世帯数を国勢調査で見ると、平成22(2010)年で295世帯になっており、過去5年間で7世帯減少しています。

1世帯当たり世帯人員は平成22(2010)年で2.50人になっており、過去5年間で0.19人減少しています。

表2 世帯数などの推移 (単位：世帯，人)

区 分	平成17 (2005)年	平成22 (2010)年	増減
世 帯 数	302	295	△ 7
世帯人員	2.69	2.50	△0.19

注：資料は、国勢調査。

(3) 人口の将来見通し

町人口の将来見通しを平成17(2005)年と平成22(2010)年の国勢調査人口をもとに、年齢コーホート推移率法で推計すると、平成30(2018)年で591人、平成35(2023)年で510人になり、平成22(2010)年と平成35(2023)年を比較すると、約230人の減少が見込まれます。

年齢別に平成22(2010)年と平成35(2023)年の人口を比較すると、0～14歳で66人が24人、15～64歳で412人が232人、65歳以上で259人が254人になるものと見込まれ、0～14歳及び15～64歳人口の減少が著しくなっています。

また、高齢化率は、平成30(2018)年で約44%、平成35(2023)年で約50%になるものと見込まれます。

図1 年齢3区分別人口推計

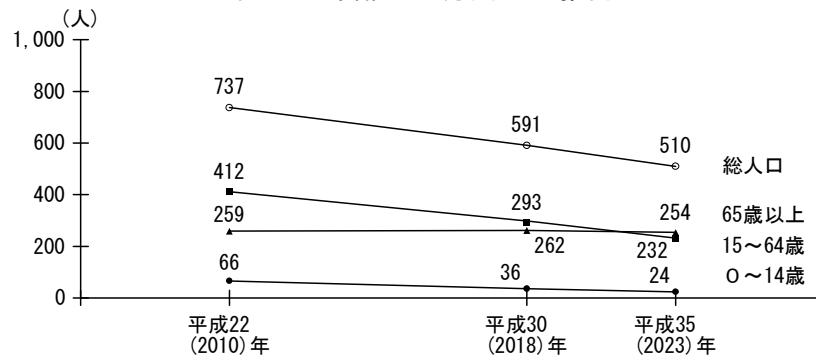


図2 年齢3区分別人口割合

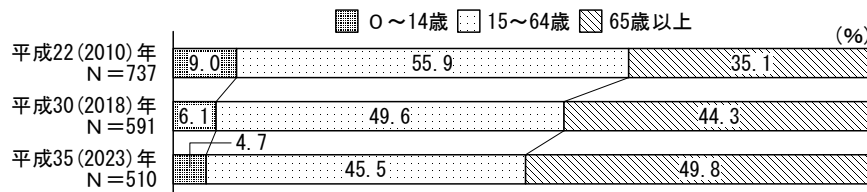
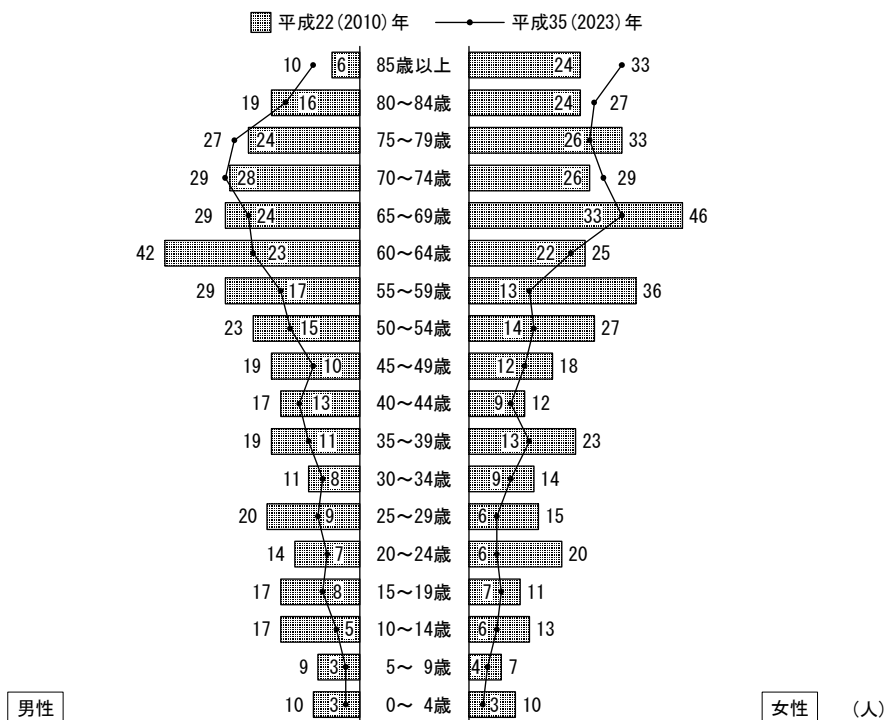


図3 男女別5歳階級別人口



3 道路・交通

道路網は、本町を(主)本郷久井線が南北に走るとともに、(一)大草三原線及び(一)三原本郷線が東西に走り、本町の骨格道路になっています。

路線バスは、JR山陽本線三原駅と本郷駅を連絡する路線が、(主)本郷久井線及び(一)大草三原線を走っており、佛通寺を経由する路線もあります。一方、馬井谷地区には路線バスが運行していません。

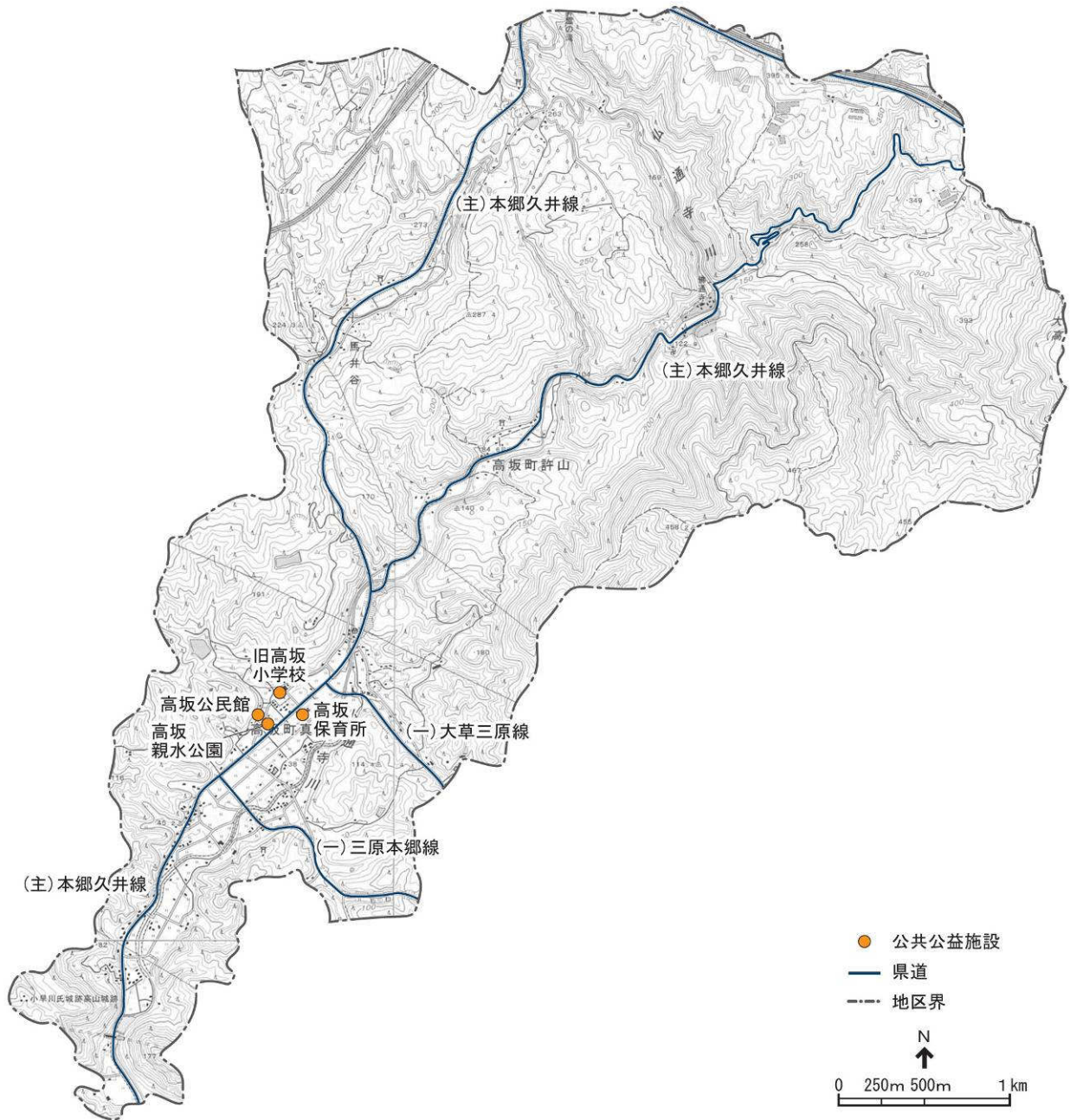
4 主要公共公益施設

主要公共公益施設としては、高坂保育所、高坂公民館、旧高坂小学校、町内の憩いの場として高坂親水公園があります。

表3 町の公共公益施設

区 分	名 称
児童福祉施設	・高坂保育所
文化集会施設	・高坂公民館
その他	・旧高坂小学校 ・高坂親水公園

図4 町の道路・交通, 主要公共公益施設



2章 町の活性化計画づくりのためのアンケート調査結果の概要

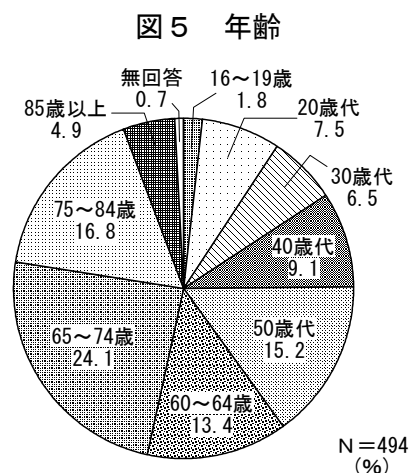
本調査は、町内住民（16歳以上）及び小学生（4～6年生）・中学生の幅広い意見を把握し、「高坂町活性化計画」の策定に反映するために行いました。

調査票の回収状況は、住民（16歳以上）494件、小学生（4～6年生）・中学生14件でした。

1 町内住民（16歳以上）

(1) 回答者の年齢

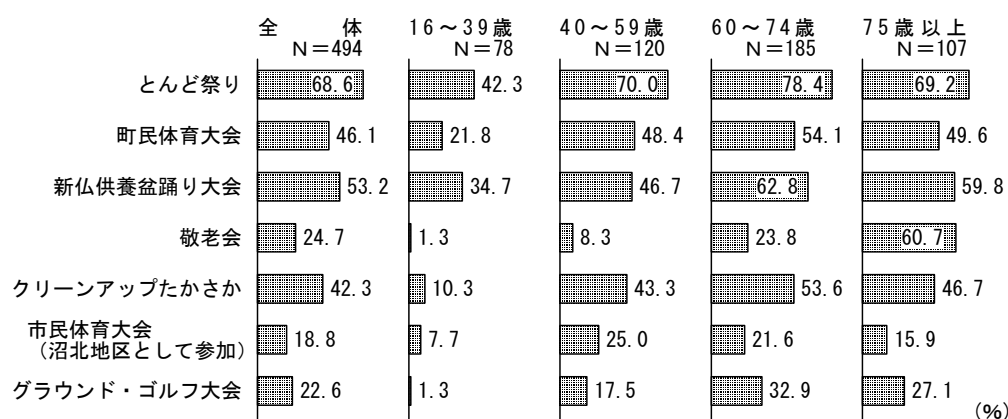
回答者の年齢は、16～39歳15.8%、40～59歳24.3%、60～74歳37.5%、75歳以上21.7%になっています。



(2) 行事や活動への参加状況

町の行事や活動へ参加している人（「ほぼ参加」、「半分程度参加」、「時々参加」を合わせた割合）の割合をみると、「とんど祭り」が68.6%で最も割合が高く、次いで「新仏供養盆踊り大会」53.2%、「町民体育大会」46.1%、「クリーンアップたかさか」42.3%の順でこれら4項目の割合が比較的高くなっています。その他では「敬老会」24.7%、「グラウンド・ゴルフ大会」22.6%、「市民体育大会（沼北地区として参加）」18.8%の順です。

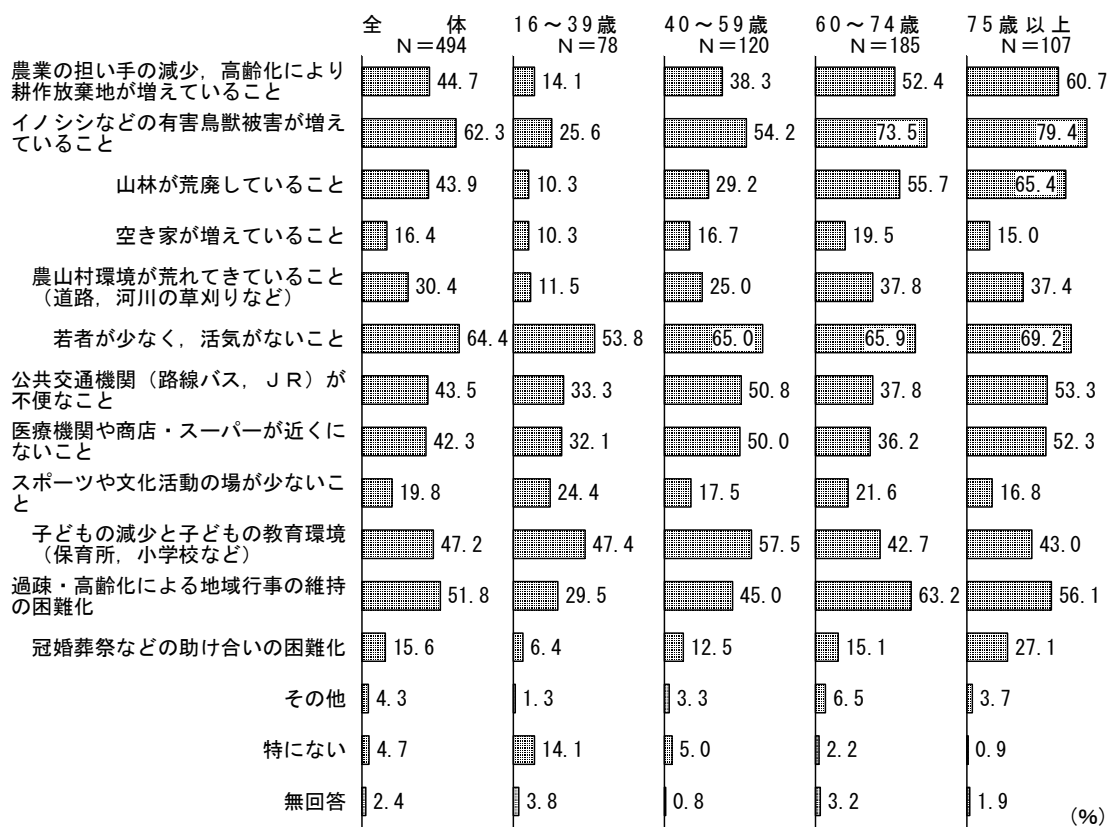
図6 町の行事や活動への参加状況



(3) 町の現状や将来のことで不安に思っていること

町の現状や将来のことで不安に思っていることの内容をみると、「若者が少なく、活気がないこと」を挙げた人が64.4%で最も割合が高く、次いで「イノシシなどの有害鳥獣被害が増えていること」62.3%、「過疎・高齢化による地域行事の維持の困難化」51.8%、「子どもの減少と子どもの教育環境（保育所、小学校など）」47.2%、「農業の担い手の減少、高齢化により耕作放棄地が増えていること」44.7%の順で、これらの項目が上位5位を占めています。その他では、「山林が荒廃していること」43.9%、「公共交通機関（路線バス、JR）が不便なこと」43.5%、「医療機関や商店・スーパーが近くにないこと」42.3%、「農山村環境が荒れてきていること（道路、河川の草刈りなど）」30.4%などの順です。

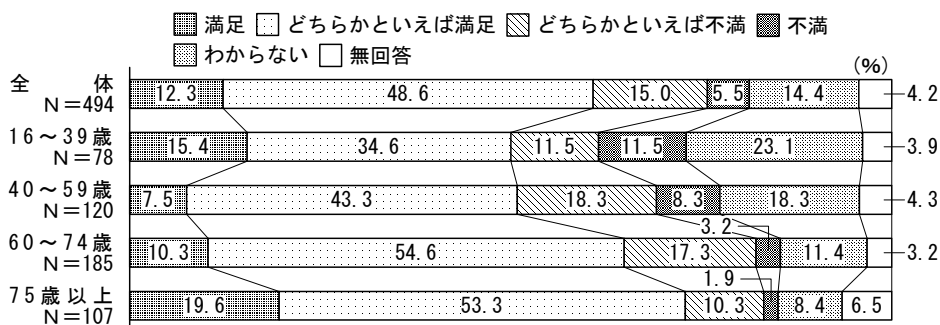
図7 町の現状や将来のことで不安に思っていること（複数回答：いくつでも）



(4) 町の住みやすさの評価

町の住みやすさについては、「満足」12.3%、「どちらかといえば満足」48.6%で、これらを合わせた住みやすさに満足している人の割合は60.9%です。

図8 町の住みやすさの評価

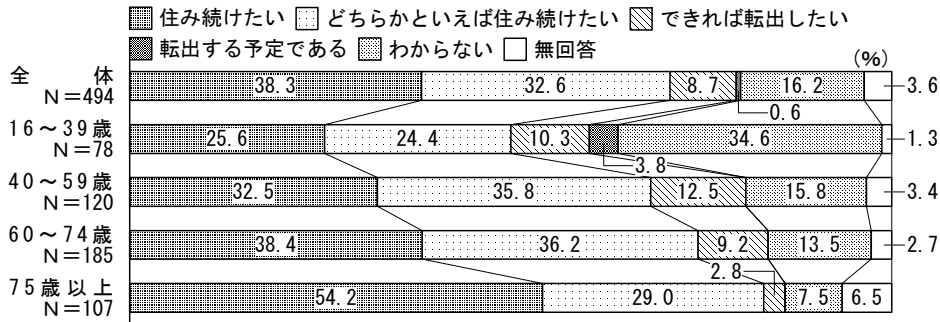


(5) 町への今後の居留意向とその理由

ア 町への今後の居留意向

町への今後の居留意向は、「住み続けたい」38.3%、「どちらかといえば住み続けたい」32.6%で、これらを合わせた町へ住み続ける意向の人は70.9%です。

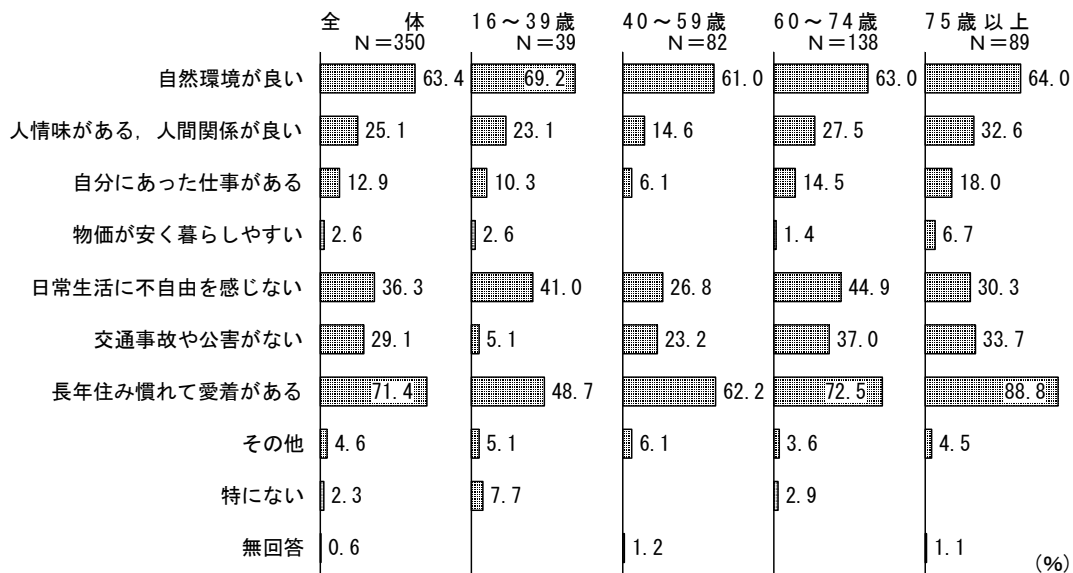
図9 町への今後の居留意向



イ 町に住み続けたいと思う理由

町に住み続ける意向の人の住み続けたいと思う理由は、「長年住み慣れて愛着がある」を挙げた人が71.4%で最も割合が高く、次いで「自然環境が良い」63.4%の順で、この2項目を挙げた人の割合が高くなっています。その他では、「日常生活に不自由を感じない」36.3%、「交通事故や公害がない」29.1%、「人情味がある、人間関係が良い」25.1%などの順です。

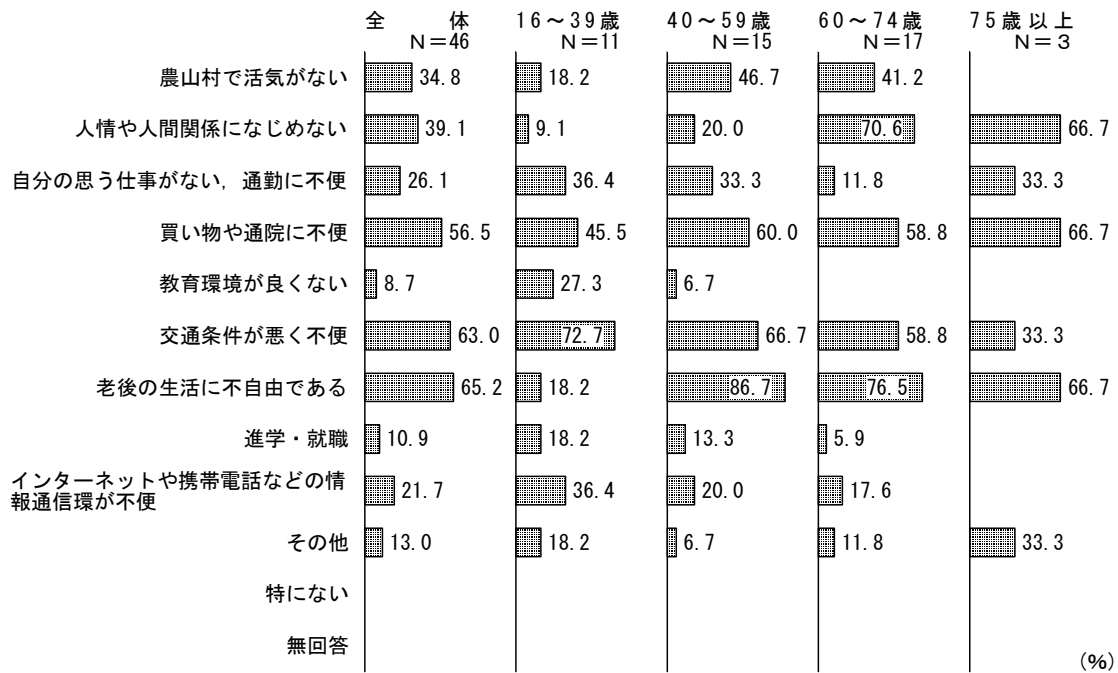
図10 町に住み続けたいと思う理由（複数回答：いくつでも）



ウ 町を転出したいと思う理由

町を転出する意向のある人の転出したいと思う理由は、「老後の生活に不自由である」を挙げた人が65.2%で最も割合が高く、次いで「交通条件が悪く不便」63.0%、「買い物や通院に不便」56.5%の順で、これら3項目を挙げた人の割合が高くなっています。その他では、「人情や人間関係になじめない」39.1%、「農山村で活気がない」34.8%、「自分の思う仕事がない、通勤に不便」26.1%などの順です。

図11 町を転出したいと思う理由（複数回答：いくつでも）



(6) 今後の地域づくりについて

ア 町で大事にしたい、活用したい資源

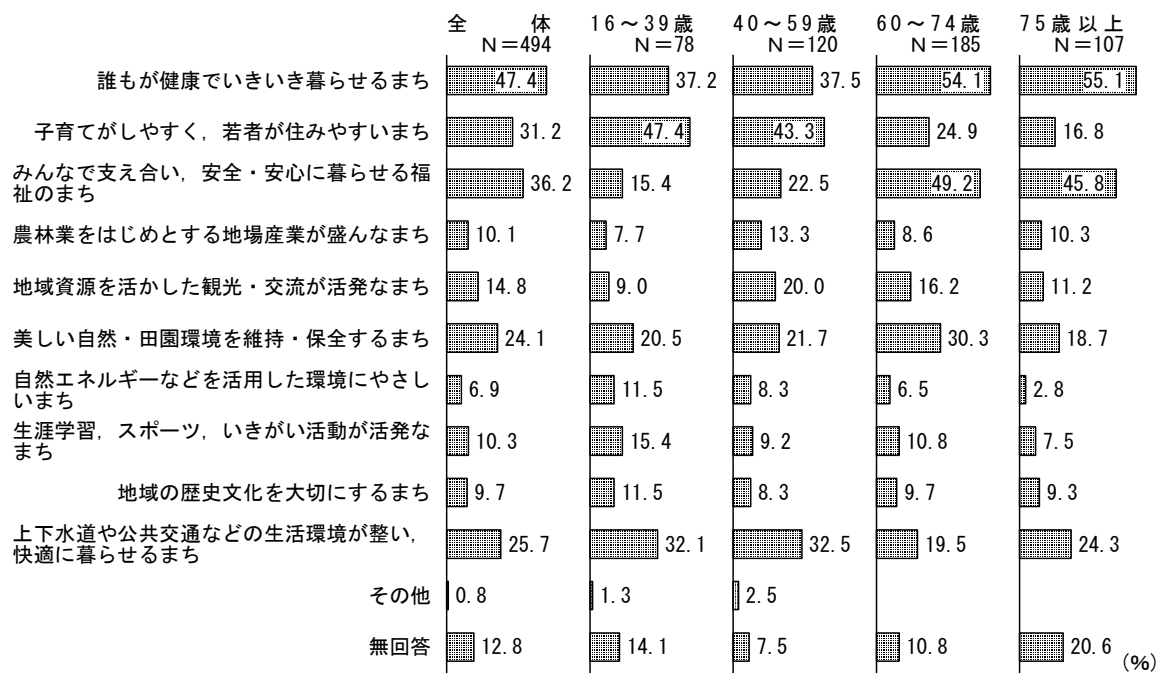
町で大事にしたい、活用したい資源として次のようなものが挙げられています。

自然資源では佛通寺の桜・紅葉45件、仏通寺川31件、施設では旧高坂小学校49件、歴史文化資源では佛通寺53件、農林産物ではぶどう27件で、これらを挙げた人が多くなっています。

イ 町の将来像

町の将来像は、「誰もが健康でいきいき暮らせるまち」を挙げた人が47.4%で最も割合が高く、次いで「みんなで支え合い、安全・安心に暮らせる福祉のまち」36.2%、「子育てがしやすく、若者が住みやすいまち」31.2%、「上下水道や公共交通などの生活環境が整い、快適に暮らせるまち」25.7%、「美しい自然・田園環境を維持・保全するまち」24.1%の順で、これら5項目を挙げた人の割合が高くなっています。

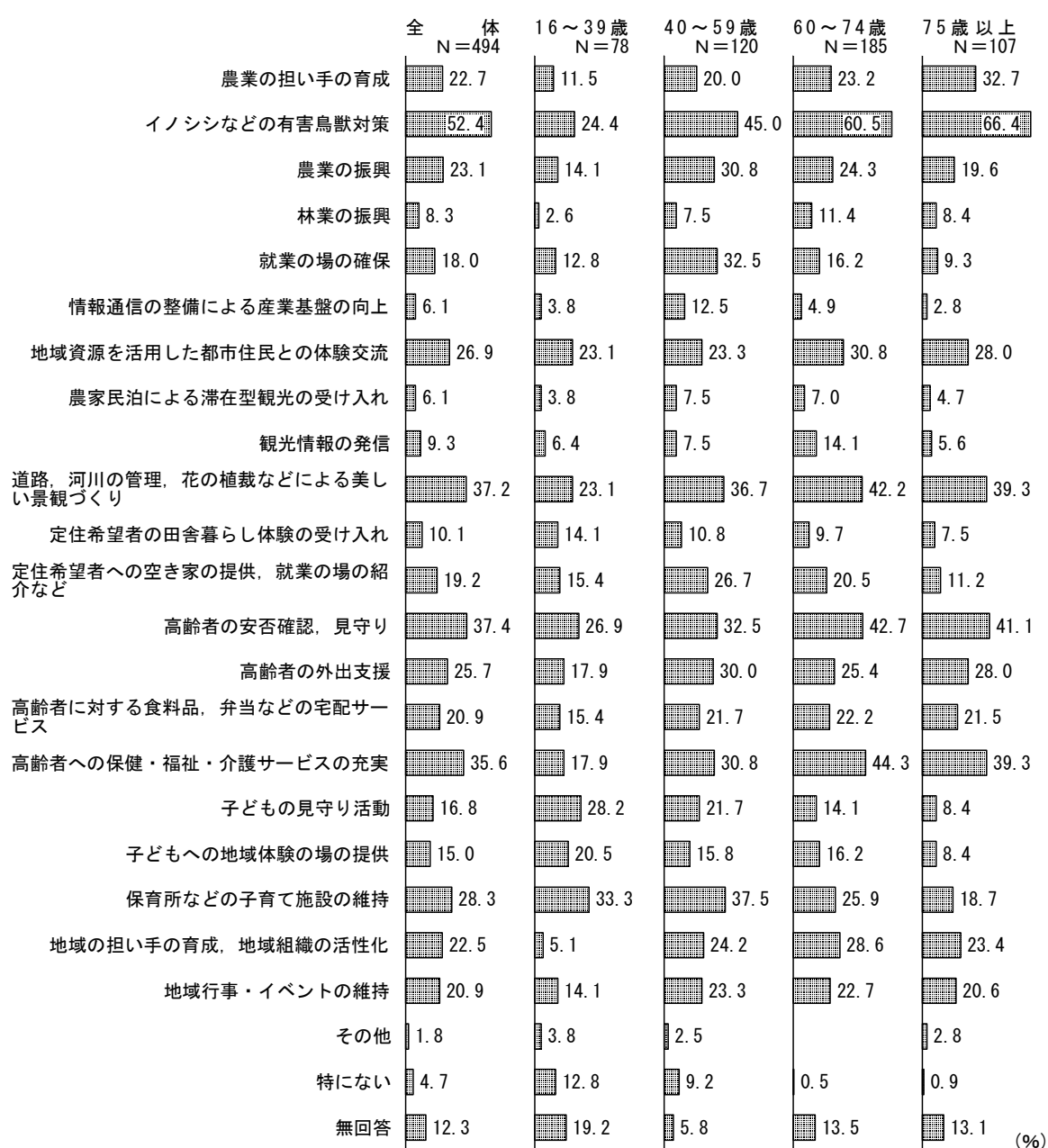
図12 町の将来像（複数回答：3つ以内）



ウ 町で今後取り組みたいこと、取り組んでほしいこと

町で今後取り組みたいこと、取り組んでほしいことの内容をみると、「イノシシなどの有害鳥獣対策」を挙げた人が52.4%で最も割合が高く、次いで「高齢者の安否確認、見守り」37.4%、「道路、河川の管理、花の植栽などによる美しい景観づくり」37.2%、「高齢者への保健・福祉・介護サービスの充実」35.6%、「保育所などの子育て施設の維持」28.3%の順で、これらの項目が上位5位を占めています。その他では、「地域資源を活用した都市住民との体験交流」26.9%、「高齢者の外出支援」25.7%、「農業の振興」23.1%、「農業の担い手の育成」22.7%、「地域の担い手の育成、地域組織の活性化」22.5%などの順です。

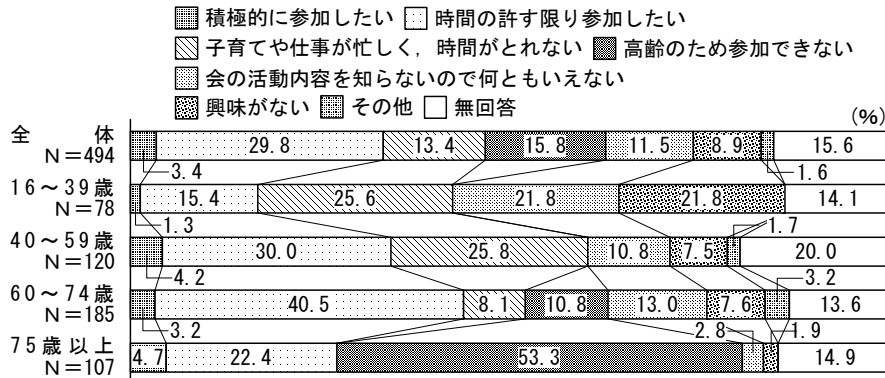
図13 町で今後取り組みたいこと、取り組んでほしいこと（複数回答：いくつでも）



エ 高坂町内会活動への参加意向

高坂町内会活動への参加意向は、「積極的に参加したい」3.4%、「時間の許す限り参加したい」29.8%で、これらを合わせた町内会活動へ参加意向のある人は33.2%です。

図14 高坂町内会活動への参加意向



(7) 農地の耕作状況について

世帯主であると答えた人で、農地を「所有している」と答えた人は65.9%です。

ア 農地の所有面積

農地を所有している人の農地の所有面積は、「30 a (3反)未満」と答えた人が36.7%で最も割合が高く、次いで「50 a (5反)~100 a (1町)未満」31.7%、「30 a (3反)~50 a (5反)未満」23.7%、「100 a (1町)~200 a (2町)未満」5.0%の順で、100 a (1町)未満の人がほとんどを占めています。

イ 耕作していない農地の割合

「耕作していない農地はない」と答えた人は28.1%です。

一方で、耕作していない農地がある人は66.8%で、その内訳は、農地の1~3割程度33.8%、4~5割程度12.2%、農地の6~9割程度8.6%、「農地の全部」12.2%です。

図15 農地の所有面積

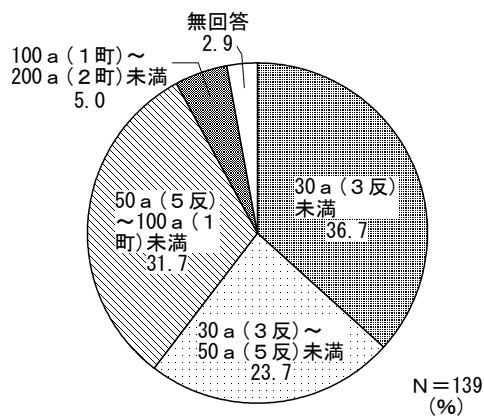
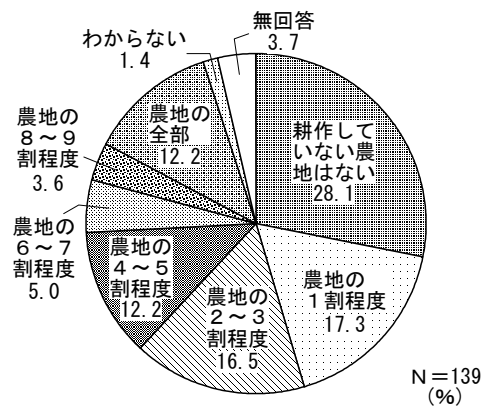


図16 耕作していない農地の割合



ウ 農地の現在の耕作状況

農地の現在の耕作状況は、「家族で耕作している」と答えた人が68.3%で最も割合が高く、次いで「家族で耕作せず、他の農家や農業生産法人に耕作を頼んでいる」12.9%、「家族で耕作するとともに、他の農家や農業生産法人に耕作を頼んでいる」7.9%、「耕作を頼む農家や農業生産法人がないので、耕作していない」5.8%の順です。

エ 農産物の販売状況

農産物の販売状況は、「農産物を販売していない」と答えた人が59.7%で約6割を占めています。農産物を販売している人は15.1%で、このうちJAへ出荷している人（「JAへ出荷するとともに、道の駅や農産物直販所で販売している」と「JAへ出荷している」を合わせた割合）が10.8%を占めています。

オ 農地の今後の耕作意向

農地の現在の耕作状況において、「家族で耕作している」と答えた人は68.3%と最も割合が高くなっていますが、農地の今後の耕作意向において「今後も家族で耕作する」と答えた人は48.2%となっており、今後、7割程度まで減少することが見込まれます。

一方で、「家族での耕作面積を減らし、他の農家や農業生産法人に耕作を頼む面積を増やす」3.6%、「家族での耕作をやめ、他の農家や農業生産法人に耕作を頼む」11.5%、「耕作をやめる」9.4%、「わからない」20.9%になっており、農地を管理する新たな受け皿が求められています。

図17 農地の現在の耕作状況

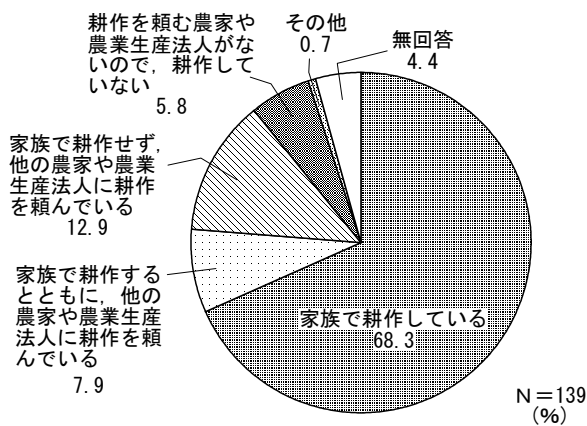


図18 農産物の販売状況

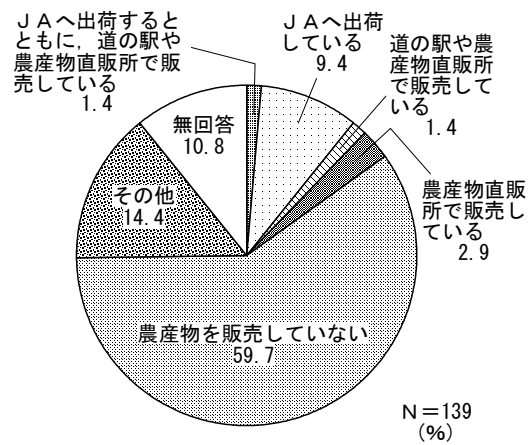
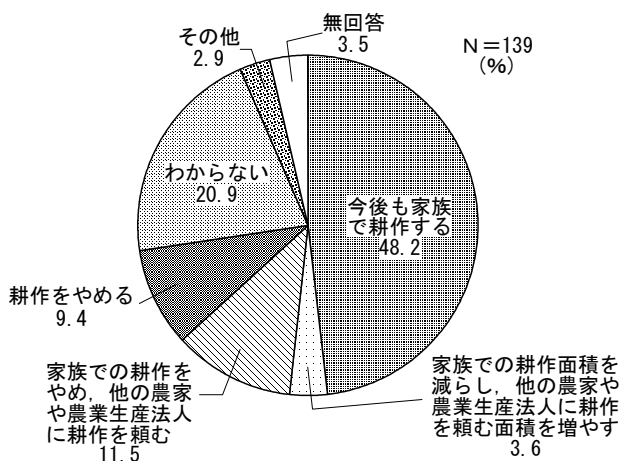


図19 農地の今後の耕作意向



2 小学生（4～6年生）・中学生

回答した14人は、小学生28.6%（4人）、中学生64.3%（9人）、不明7.1%（1人）です。

(1) 今後の地域づくりについて

ア 町のすばらしいところ（自由記述）

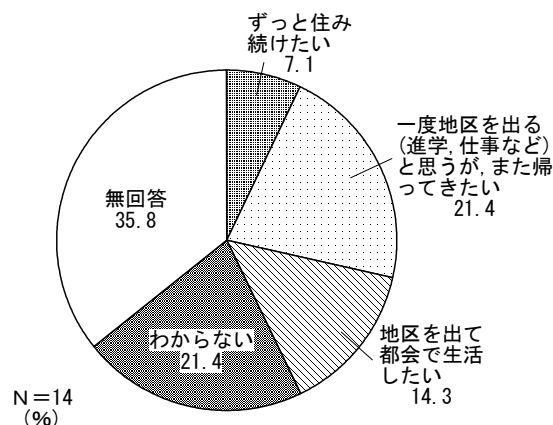
町のすばらしいところとして、自然資源で佛通寺の桜・紅葉を挙げた人が多くなっています。

イ 町への今後の居住意向

町への今後の居住意向は、「ずっと住み続けたい」7.1%、「一度地区を出る（進学、仕事など）と思うが、また帰ってきたい」21.4%で、これらを合わせた町へ居住する意向の人は28.5%です。

一方、「わからない」または無回答の人が約6割を占めています。

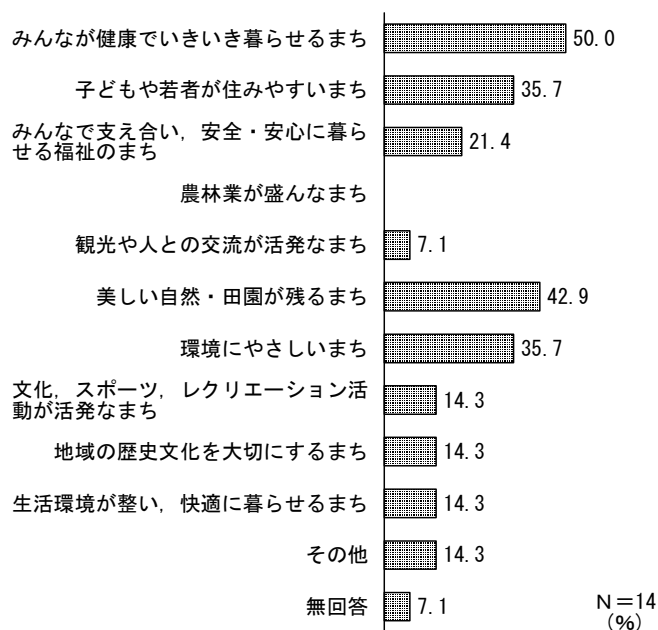
図20 地区への今後の居住意向



ウ 町の将来像

町の将来像については、「みんなが健康でいきいき暮らせるまち」を挙げた人が50.0%で最も割合が高く、次いで「美しい自然・田園が残るまち」42.9%、「子どもや若者が住みやすいまち」及び「環境にやさしいまち」35.7%、「みんなで支え合い、安全・安心に暮らせる福祉のまち」21.4%などの順です。

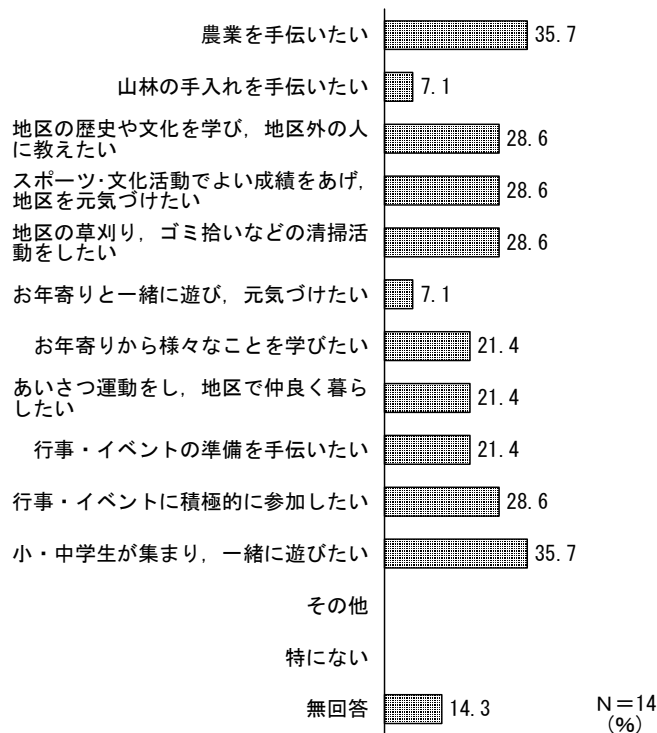
図21 町の将来像（複数回答：いくつでも）



エ 町を住みよくするためにしたいこと

町を住みよくするためにしたいこととしては、「農業を手伝いたい」及び「小・中学生が集まり、一緒に遊びたい」を挙げた人が35.7%で最も割合が高く、次いで「地区の歴史や文化を学び、町外の人に教えたい」、「スポーツ・文化活動でよい成績をあげ、地区を元気づけたい」、「地区の草刈り、ゴミ拾いなどの清掃活動をしたい」及び「行事・イベントに積極的に参加したい」28.6%、「お年寄りから様々なことを学びたい」、「あいさつ運動をし、地区で仲良く暮らしたい」及び「行事・イベントの準備を手伝いたい」21.4%などの順です。

図22 町を住みよくするためにしたいこと（複数回答：いくつでも）



(2) 好きな行事（自由記述）

好きな行事は、「とんど祭り」が7件で最も多く、次いで「いのこ」4件、「市民体育大会」3件などの順です。

表4 好きな行事

行事	件数(件)
とんど祭り	7
いのこ	4
市民体育大会	3
クリーンアップたかさか	2
盆踊り	2
町民体育大会	1

3章 町の魅力・資源と問題点・課題

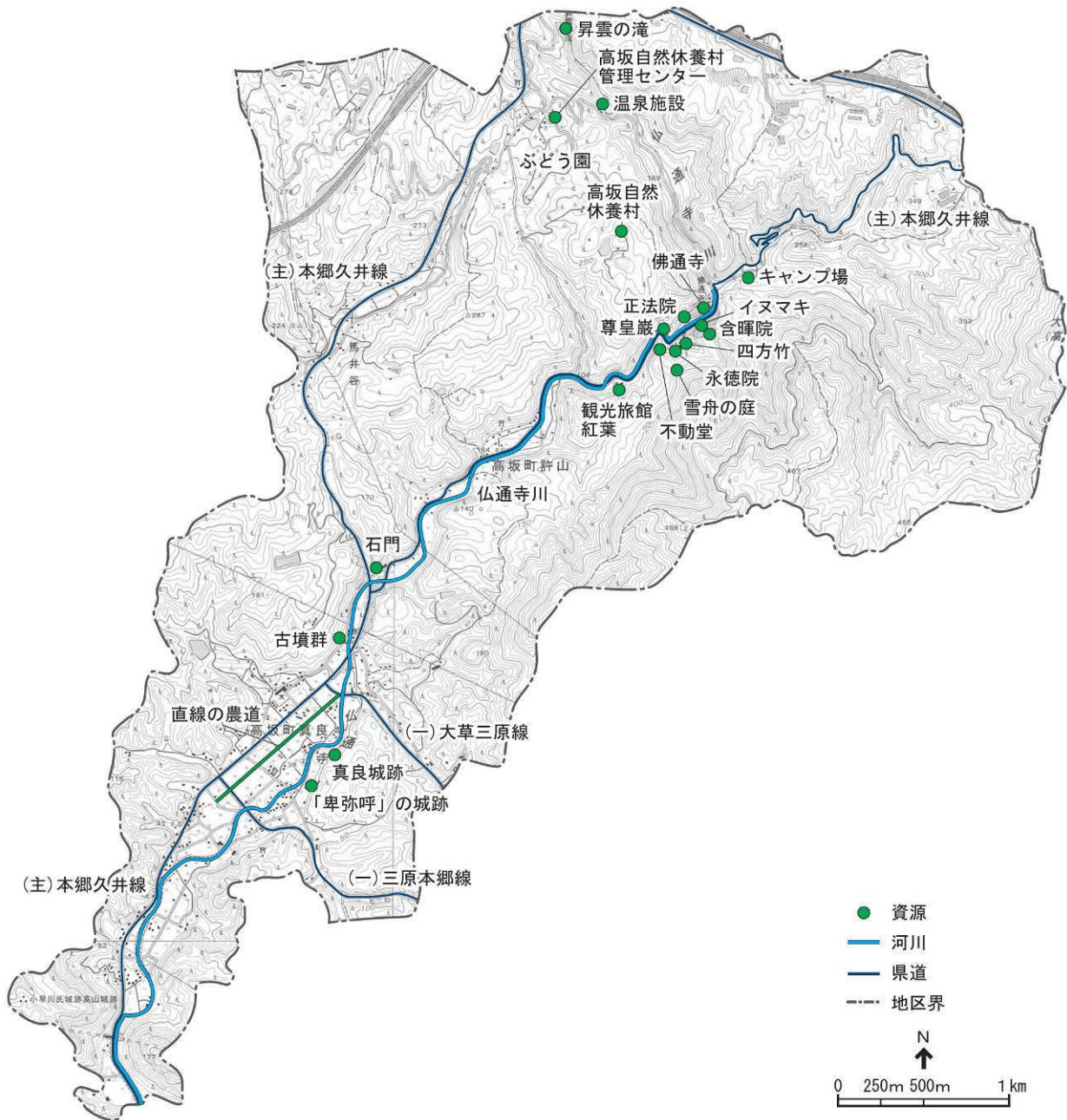
1 町の魅力・資源

アンケート調査結果及びワークショップ（意見交換会）での意見を踏まえて、町の魅力・資源を整理すると、次のとおりです。

表5 町の魅力・資源

区 分	魅力・資源
自然資源	・仏通寺川，昇雲の滝，イヌマキ（天然記念物） ・佛通寺県立自然公園 ・四方竹
歴史文化資源	・石門 ・真良城跡，「卑弥呼」の城跡 ・古墳群
観光・交流資源	・佛通寺（永徳院，雪舟の庭，含暉院，尊皇巖，不動堂，正法院） ・高坂自然休養村（管理センター，ぼたん園，キャンプ場，子どもの広場，つどいの広場，ふれあい広場，温池ゾーンなど） ・観光旅館紅葉 ・温泉施設
農林地・農産物	・ぶどう園，有機農業 ・遊休農地
生活環境	・空き家 ・直線の農道（600～700m）
町内組織・近隣関係・人材	・魚の薫製，ひょうたんづくり，竹細工，しめ縄，わら草履づくり，彫り物が上手な人などの人材

図23 町の魅力・資源



2 町の問題点・課題

アンケート調査結果及びワークショップ（意見交換会）での意見を踏まえて、町の問題点・課題を整理すると、次のとおりです。

表6 町の問題点・課題

項目	問題点・課題
高齢者の暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ・年金収入だけなので所得に対する不安があること ・引きこもりがちで孤立している高齢者が多く、近隣づきあいや交流がないこと ・高齢者の通院，買い物の際の交通手段が不便なこと （路線バスが運行していない地区があること，路線バスが運行していても運行回数が少なく，不便なこと） ・将来，車の運転ができなくなった時の交通手段が不安なこと ・災害時の不安があること ・食事場所がないこと，高齢者を世話する人が少ないこと ・一人暮らし高齢者に対して町内の情報が伝わらないこと
若者の定住・子育て環境・U J I ターン	<ul style="list-style-type: none"> ・若者に魅力がない生活環境（就業の場，生活環境など） ・小学校が廃校になり，子育てなどの環境が悪化していること ・町出身者との交流が少ないこと ・U J I ターン者が少ないこと
農林業・農林地の管理	<ul style="list-style-type: none"> ・イノシシなどの有害鳥獣被害の増加 ・各農家の担い手，農業後継者の減少などに伴う農地管理の困難化，遊休農地の増加 ・所得に結びつかない稲作農業への意欲の低下 ・山林の荒廃化への対応 ・間伐材などの活用
観光交流	<ul style="list-style-type: none"> ・佛通寺への来訪客は紅葉シーズンの6～7万人のみで，その他のシーズンの来訪客が少ないこと（紅葉以外の資源の活用不足） ・高坂自然休養村の来訪客が減少していること ・町全体の観光資源の活用が不十分なこと ・来訪客向けの観光マップ，休息施設，特産品販売施設がないこと ・観光ガイドがないなどおもてなし不足 ・高坂町のPR不足
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ・遊休農地，荒廃山林の増加に伴う町内環境の悪化 ・仏通寺川の環境保全が不十分なこと ・商業サービス施設の廃業，高坂小学校の廃校などによる町の活力の低下 ・小学校跡地の活用
町内活動	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会の横のつながりが弱く，一体感の醸成が必要なこと ・若者，子育て世代の町内会活動への参加が少ないこと ・身体能力の低下した高齢者の町内会活動，行事への参加の困難化 ・町内会活動へ関わる人が少なく，役員などの負担の増大 ・若者相互の交流，世代間交流の不足 ・特技を持っている人材の活用

4章 町の活性化計画

1 町の将来像

アンケート調査結果において、町の将来像として次の5項目を挙げた人の割合が高くなっています。

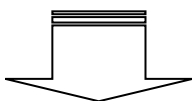
また、人口の将来見通しで示したように、今後、過疎化・高齢化に加えて、若者や子どもの減少が急激に進むおそれがあり、高齢者の安全安心な暮らしの確保と子育て環境の充実、若者定住・UJIターンの促進による次代を担う人材の確保に取り組む必要があります。

さらに、佛通寺、高坂自然休養村をはじめとする多彩な資源・魅力を活かし、来訪客との双方向の交流の推進などに努める必要があります。

このため、アンケート調査結果やワークショップ（意見交換会）での意見、今後の人口動向を踏まえて、「**美しい景観の中で誰もが元気に暮らし、交流する町 たかさか**」を町の将来像に掲げます。

<町の将来像に関する意見：10頁参照>

① 誰もが健康でいきいき暮らせるまち	47.4%
② みんなで支え合い、安全・安心に暮らせる福祉のまち	36.2%
③ 子育てがしやすく、若者が住みやすいまち	31.2%
④ 上下水道や公共交通などの生活環境が整い、快適に暮らせるまち	25.7%
⑤ 美しい自然・田園環境を維持・保全するまち	24.1%

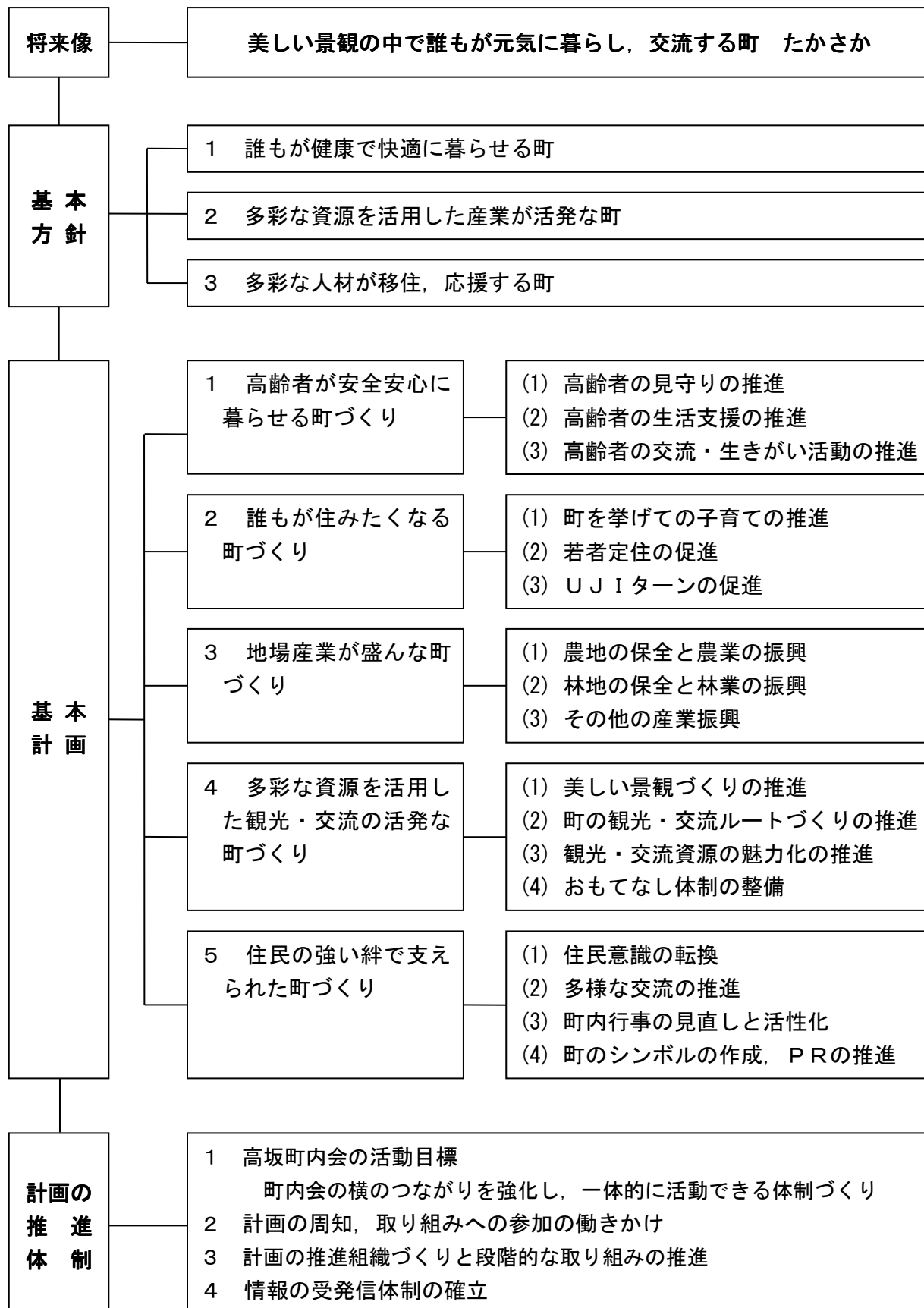


<町の将来像>

美しい景観の中で誰もが元気に暮らし、交流する町 たかさか

町の将来像の実現に向けて、町づくりの基本方針、基本計画及び計画の推進体制を次のように掲げます。

＜町づくりの体系＞



2 町づくりの基本方針

町の将来像を実現するために、3つの町づくりの基本方針を掲げます。

1 誰もが健康で快適に暮らせる町

- ・住民の支援のもとに、高齢者が安全安心に暮らせる町
- ・町を挙げての子育ての推進により、町に愛着と誇りを持つ子どもが育つ町
- ・若者が住みやすく、活動しやすい町
- ・同世代、世代間の交流が活発で、住民で支え合う人情味ある町

2 多彩な資源を活用した産業が活発な町

- ・ぶどう栽培、有機農業など特徴のある農業が展開される町
- ・三原市を代表する観光・交流資源である佛通寺・高坂自然休養村を活用した交流が活発な町
- ・遊休農地、山林を活用した産業おこしの町

3 多彩な人材が移住、応援する町

- ・町出身者との交流が活発で、協働でまちづくりに取り組む町
(土地・建物の管理・活用に係る連携、Uターンしやすい環境づくり)
- ・交流、移住の推進により、新たな担い手が育つ町
- ・町の魅力を発信する町

3 町づくりの基本計画

町の将来像及び基本方針を踏まえて、町づくりの基本計画において5つの柱と主な取り組みを掲げます。

この内容は、アンケート調査結果、ワークショップ（意見交換会）での意見をもとにとりまとめたものです。

1 高齢者が安全安心に暮らせる町づくり

(1) 高齢者の見守りの推進

- ・高齢者のみの世帯に対する近所での見守りの強化
- ・一人暮らし高齢者を地区ごとで見守る体制づくり

(2) 高齢者の生活支援の推進

ア 交通手段

- ・高齢者の交通手段を確保するため、町内で世話人を確保し、予約乗合タクシー（10人乗り程度）の運行の検討
- ・一般のタクシーを乗合で利用する仕組みづくり（町内で外出先、外出時刻を決めて、一緒に外出する仕組みづくり（受付・調整する人が必要））
- ・路線バスの運行維持の働きかけ
- ・本郷中央病院の送迎車両の周知，活用

イ 買い物の支援

- ・買い物救援隊を組織し、外出困難な高齢者の買い物支援（買いたい品物を聞き、代わりに買い物に行って配達する仕組みづくり）
- ・移動販売事業者へ移動販売車の定期的な巡回の働きかけ
- ・町の利便性の向上を図るため、住民出資による店舗，飲食店設置，運営の検討

ウ 食事の支援

- ・食事の準備ができない高齢者に対する配食サービス（弁当）の検討

(3) 高齢者の交流・生きがい活動の推進

- ・高齢者の交流の場となる常設サロンの設置，運営
- ・元気な高齢者の収入に結びつく軽作業の確保，紹介（身体状況に応じた農業活動など）

2 誰もが住みたくなる町づくり

(1) 町を挙げての子育ての推進

ア 町に愛着と誇りを持つ子どもの育成

- ・子どもへ町内で出来る多様な体験の提供（絵本の読み語り，農林業，川遊び，伝統芸能など）を通して，町に愛着と誇りを持つ子どもの育成
- ・子どもの遊び場として高坂親水公園の活用
- ・町内会のイベントに子ども（幼児）部門の設置（運動会で幼児の行進，ダンスなど）
- ・新生児の誕生に合わせて記念樹の贈呈，植樹による「たかさか町民の森」づくり（個人の記念樹の植栽も含めて）
- ・町内会独自の出産祝金制度の創設

イ 保護者に対する子育て支援

- ・乳幼児のいる保護者ための子育てサロンの開設
- ・ファミリーサポート（共働き家庭の子どもの預かり）組織の設立，運営

(2) 若者定住の促進

ア 若者が住みやすい環境づくり

- ・若者のニーズの把握
- ・婚活パーティーの開催，若者同士の交流の場づくり

イ 就業の場の確保

- ・地元事業所，農家などとの連携による就業の場づくり（3～4人程度から始める）

(3) U J I ターンの促進

- ・小学校跡地を活用して，アート村（画家，木工作家など）づくりによる若者の移住の促進
- ・U J I ターンの促進に向けた事務局体制づくり，インターネットを活用して町の情報の発信（町のホームページの開設）
- ・都市住民に田舎暮らし（民泊）体験の提供
- ・売買また賃貸できる空き家の把握，三原市と連携した空き家のPR，移住希望者への空き家の斡旋などによるU J I ターンの促進
- ・町内会による移住者に対する相談支援体制づくり

3 地場産業が盛んな町づくり

(1) 農地の保全と農業の振興

ア 有害鳥獣対策

- ・イノシシなどによる農作物被害防止のために町ぐるみで共同防護柵の設置
- ・集落，地区単位での有害鳥獣被害防止対策の検討

イ 農業の担い手の確保

- ・農業生産法人の設立と多様な担い手の雇用による運営の推進
- ・町内外の農業に関心のある若者の受け入れ
- ・町内の高齢者で農業への従事を希望する人を軽作業で雇用
- ・町内外の農業希望者の募集，遊休農地提供システムの検討

ウ 多様な農業の展開

(ア) 遊休農地の活用

- ・カボチャ，サツマイモ，そば，花などの栽培
- ・レンゲなどの景観作物の栽培による美しい町内景観の形成
(住民の憩いの場，都市住民との交流の場として活用)

(イ) 高坂町の特徴のある農業の推進

- ・高坂町のぶどう，梨，コシヒカリの一層のPR
- ・有機農業に対する理解の醸成と参加農家の拡大の働きかけ
- ・先進地である世羅町から学び，ぶどうなどの観光農業の推進

(ウ) ジビエ料理（野生鳥獣を使った料理）の提供

- ・捕獲したイノシシなどの肉を特産品として販売
- ・農家レストラン（イノシシ肉の提供など）の開設
- ・来訪客に対する農産物直販所の開設

(2) 林地の保全と林業の振興

- ・間伐材をチップ（ペレット）にして販売
- ・間伐材の燃料化，竹炭の生産

(3) その他の産業振興

- ・魚の薫製づくり，ひょうたんづくり，竹細工，しめ縄，わら草履づくり，彫り物が上手な人などの人材を活用した産業おこし

4 多彩な資源を活用した観光・交流の活発な町づくり

(1) 美しい景観づくりの推進

- ・住民一人ひとりの植樹による「桜の町」, 「紅葉の町」づくり
- ・観光・交流コース沿いへの花木の植栽による美しい景観づくり
- ・遊休農地を活用し, 春は菜の花, 夏はひまわり, 秋はコスモスなどの植栽による美しい景観づくり

(2) 町の観光・交流コースづくりの推進

ア 町内の観光・交流ポイントの把握

- ・町内の名勝などの調査の実施（観光ポイント, 案内標識, 起点からの距離などの調査）
- ・四季それぞれの観光・交流資源（イベントでも良い）の発掘, 四季を通しての集客の推進

イ 観光・交流コースづくり

- ・佛通寺の四季の魅力を体験できるコースづくり（春：梅, 桜, 新緑, 秋：紅葉など）
- ・佛通寺, 高坂自然休養村及び町内の歴史資源（古墳）を含めた観光コース, 高坂町全体のウォーキングコースづくり

(3) 観光・交流資源の魅力化の推進

ア 仏通寺川

- ・EM菌を活用した水質の浄化, 河川の再生（草刈り, ゴミ処理など）の推進
- ・仏通寺川のホタルの里づくり, 子ども, 家族連れに対する仏通寺川一帯での自然体験教室の実施（麦わらでホタルかご作り, ホタル観察, カブトムシ採りなど）
- ・昇雲の滝の環境整備とPRの強化

イ 佛通寺・高坂自然休養村

- ・佛通寺の行事, 清掃活動への住民の参加の促進, 町全体で佛通寺行事の盛り上げ
- ・高坂自然休養村の遊歩道の整備, ぼたん園の活用の推進
- ・佛通寺と高坂自然休養村とのネットワークの強化

(4) おもてなし体制の整備

ア 来訪客に楽しんでもらえる観光・交流マップづくり

- ・佛通寺, 高坂自然休養村をはじめとする町の観光・交流資源, 歴史文化資源, 四季の見所などを紹介したマップづくり
- ・観光・交流コース, ウォーキングコース及び距離の記載

イ 案内標識の整備

- ・町内及びJR山陽本線本郷駅へ案内看板の設置（例：佛通寺まで〇km）。

ウ 観光ガイドの育成

- ・町内で佛通寺の歴史を学び、佛通寺を案内する観光ボランティアの育成
- ・観光ボランティアを活用する仕組みづくり

エ 高坂町の情報発信、特産品販売などの体制の確立

- ・町出身者をはじめとする都市住民へ観光・交流情報の発信
- ・町の案内、休息、農産物・特産物などの提供を行う道の駅的な施設の設置（旧高坂小学校跡地など）の検討
- ・B級グルメ（そば、ピザ、ラーメン、お好み焼きなど）の店舗、そば道場（シシそばなどをメニューとする予約制の店舗）の開設の検討

5 住民の強い絆で支えられた町づくり

(1) 住民意識の転換

- ・誰かがやってくれるだろう（誰もしない、できない）という意識の転換
- ・住民の一体感を醸成する挨拶運動の推進

(2) 多様な交流の推進

- ・酒を飲む場（同好会）を設け、若者と中高年者の交流の推進
- ・子どもを中心とした交流の場づくり，伝統芸能・技術の子どもへの継承
- ・郷土愛を育むため，高坂町史の編纂と学習会の開催
- ・旧高坂小学校跡地を活用した町内交流拠点づくり（グラウンドの芝生化，高齢者サロン，サークル活動，手づくり教室（子どもから大人まで参加できるもの）など）

(3) 町内行事の見直しと活性化

ア 負担の少ない町内行事の開催

- ・人口減少，高齢化に対応し，住民に負担の少ない行事開催の検討
- ・地区単位の「とんど」の維持が困難化しており，町全体で集約して開催（地区競争大会），参加者の拡大による活性化

イ 多様なイベントの開催

- ・子どもを対象としたクリスマス会，七夕，豆まきなど季節のイベントの開催
- ・直線の農道（600～700m）を利用した地区対抗綱引き大会の開催
- ・田んぼバレーの開催などの新規行事の検討

(4) 町のシンボルの作成，PRの推進

- ・町のイメージキャラクター，町の花，町の木を定め，町民の一体感の醸成と町外への高坂町のPR

4 計画の推進体制

(1) 高坂町内会の活動目標

町づくりの核になる高坂町内会の活動目標を次のように掲げます。

町内会の横のつながりを強化し、一体的に活動できる体制づくり

(2) 計画の周知，取り組みへの参加の働きかけ

「高坂町活性化計画」の周知，取り組みへの参加の働きかけを行います。

(3) 計画の推進組織づくりと段階的な取り組みの推進

ア 計画の推進組織づくり

- ・町内会の事務局機能の強化
- ・町内会へのプロジェクトチームの設立による計画の具体化の推進

イ 段階的な取り組みの推進

- ・計画の優先順位付けを行い，段階的な取り組みの推進

ウ 取り組みへの多様な担い手の参加の確保，人材の育成

- ・住民，各種団体，NPO法人，企業などとの連携の強化
- ・町出身者及び都市住民の応援，三原市などの支援の活用
- ・講習会，研修会，先進地視察などの開催による人材の育成

(4) 情報の受発信体制の確立

ア 町内向けの情報受発信

- ・「広報たかさか」の充実
- ・二世帯，三世帯の世帯には複数の配布物の配布
- ・有線放送による情報発信の充実
- ・若者世帯に対するインターネットを活用した情報の受発信

イ 町外向けの情報発信

- ・高坂町を紹介するホームページの開設の検討
- ・観光・交流資源，イベント，空き家などの情報発信
- ・携帯電話からもアクセスできるホームページづくり

資料 計画策定の取り組み

計画策定の経緯

実施日	委員会など	協議事項
平成25 (2013)年 9月28日	第1回地域計画 策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・地域計画策定委員会の設置 ・「地域計画」策定の進め方について ・アンケート調査, ワークショップについて
11月3日	第2回地域計画 策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査の実施について
	第1回高坂町活性化 ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> ・町の魅力・資源と活用のアイデアについて
11月3日～ 11月30日	アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・町内住民（16歳以上） ・小学生（4～6年生）・中学生
12月8日	第2回高坂町活性化 ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> ・町で困っていることとその解決のアイデアについて ・町の将来像, 今後取り組みたいこと, 取り組んでほしいこと
平成26 (2014)年 1月25日	第3回高坂町活性化 ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査結果の報告 ・テーマ別の具体的な取り組みについて
2月22日	第3回地域計画 策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・計画素案の協議, 修正
3月15日	第4回地域計画 策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・計画案の協議, 承認